

MIRAI

[人と防災未来センターニュース]

[人と防災未来センターニュース]

発行／阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター



Vol.

14

Contents

特集	特別企画展「風水害と防災・減災」開催	1
	壁面展示「震災モニュメントマップ」	3
	専任研究員紹介	4
	スマトラ島沖地震津波災害調査報告	5
	観覧者動向報告	6
	トライやるウィーク	8

特集

特別企画展

「風水害と防災・減災－台風と集中豪雨の被害を少なくするために－」開催

昨年、史上最多の上陸となり、全国各地で猛威を振った台風に視点をあて、なぜ台風の上陸が相次いだのか、台風等による風水害の被害はどのようなものだったのか、風雨等にどう備えるべきななどのなどを、わかりやすく解説する特別企画展「風水害と防災・減災－台風と集中豪雨の被害を少なくするために－」を防災未来館で平成17年10月30日（日）まで開催しています。

PART 1 台風がやってくる！

平成16年の台風23号の発生から衰退までを地球を1時間に1枚撮影した衛星画像により振り返ってみることができます。

日本で台風と呼んでいる熱帯低気圧は、地球上の発生地域によって呼び方が異なり、ハリケーン、サイクロンはどこの地域か調べることができます。

ハンズオン展示では、地球の自転の影響で風の向きを曲げる「コリオリの力」を説明したものや空気の圧力を変化させることでペットボトルの中に雲を作るものなど、興味深いものが用意されています。



会場の様子



台風23号の衛星画像



ペットボトルの中に雲を作る

PART 2 台風・集中豪雨がもたらす風雨水害

平成16年は史上最多の10個もの台風が日本に上陸した。平成15年までの一年に上陸する台風の平均は2.6個であることから、飛びぬけて多い年だったと言えます。

台風・集中豪雨がもたらす災害は、洪水、内水氾濫、地すべり、強風など多岐にわたります。特に台風23号は兵庫県の豊岡、洲本において甚大な被害をもたらしましたが、各地の被災状況を生々しい写真で紹介します。

また、20世紀における日本の風水害の記録やその教訓を伝える映像を自由に選択してみることができるコーナーも設置されています。



風水害の事例紹介



台風23号の爪あとの写真

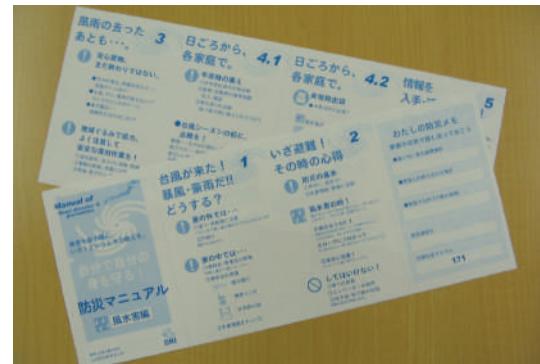
PART 3 備えよう。自助の防災・減災

都市は発達に伴って水害に弱くなったと言われます。それは、造成地の拡張や保水力の低下、ヒートアイランド現象などに加え、住民の意識の低下が問題とされています。

ここでは、私たちの営みを守るためにインフラによって水害を防ぐしくみを紹介するとともに、いざというときに自分で自分の身を守るための防災マニュアルを紹介します。

展示されている内容は、携帯版の防災マニュアルとして自由に持ち帰ることができます。

風水害は事前に予期できる災害です。是非人と防災未来センターに足を運んでいただき、風雨水害に対する防災意識をあらたにしてはいかがでしょうか。



防災マニュアル風水害編

阪神・淡路大震災 “わたしたちの復興” プロジェクト「個人復興史」募集中

募集期間

平成18年3月31日まで

「個人復興史プロジェクト」とは、被災者が震災からどのように復興したのかを、市民自らが写真や文章で位置情報とともにコンピューター地図上に記録し、デジタルデータとして後世に継承するとともに、インターネットを通じて国内外に効果的に情報発信します。

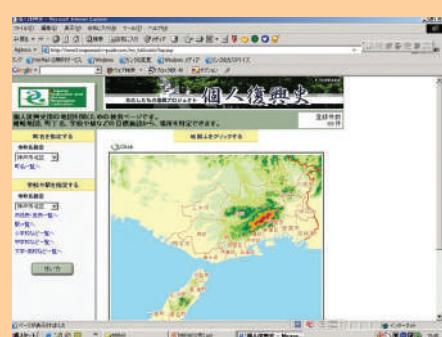
募集内容

- 個人、団体、地域、学校等の復興の歩みや復興への取組がわかる写真（震災前、震災直後、復興への取組、現在）
※簡単な説明コメントを書き込んでください。

- 震災時の思い又は復興にいたる経過をつづった文章など

募集方法

- ご家庭等にあるパソコンから、人と防災未来センターのホームページを通じて入力していただきます。
URL:<http://www.dri.ne.jp>
- ご自分でパソコンから入力できない方は、人と防災未来センターへ写真等を郵送していただいても結構です。郵送の場合は、下記に電話連絡をお願いいたします。
電話：078-262-5058（資料室）



壁面展示

「震災モニュメントマップ ～あの日を忘れないために～」

震災の記憶を様々な形でとどめている震災モニュメント。震災から十年経ち、現在ではその数は200をこえています。今回、資料室内のガラス張りの壁面を利用した展示で、この震災モニュメントをとりあげました。平成17年5月17日より始まったこの展示は、センター来館者が今度は街中にある震災を伝える場を訪れることができるようになると、中央区、長田区、淡路島のコース別に構成された内容になっています。

展示では、センター自体の建物の意味も紹介されており、震災を経て被害を受けた建造物そのものから、一般的に「モニュメント」という言葉から想像できないようなものまで、様々な形態のモニュメントが存在し、それぞれのモニュメントにこめられた想いが伺える内容になっています。

同展示は平成17年5月17日9月4日までの期間限定のもので、展示内容や地図を掲載した配布用資料も用意されており、実際にモニュメントを見学する際にも参考していただけます。是非一度資料室にお立ち寄りください。



壁面展示の様子

震災資料のインターネット検索

このたび、センターが所蔵する阪神・淡路大震災に関する震災資料のうち公開している資料及び図書の目録検索がインターネット上でもできるようになりました。いつでもどこでも検索ができるようになったことで、国内外のより多くの方々に震災資料や図書の情報へアクセスしていただけます。

検索を行うには、センターホームページの最初のページで「情報検索システム」と書かれたバナーをクリックすると検索画面になります。お調べになりたいことに応じて「資料を検索する」または「図書を検索する」のボタンを選んでいただくと検索できます。一部の資料については画像が閲覧できるものもあります。ぜひ一度、検索してみて下さい。



情報検索システムトップページ



検索結果例

センターホームページ URL : <http://www.dri.ne.jp>
問い合わせは資料室 (078-262-5058) まで。



専任研究員紹介

人と防災未来センターでは、総合的・実践的な防災の専門家として育成する専任研究員を今年度、新たに2名採用しました。2名の専任研究員は、それぞれの思いを胸に、研究者としてのスタートを切りました。また、秦康範、菅磨志保、伊藤ゆかり、越村俊一の4名の専任研究員が任期を終了し、人と防災未来センター リサーチフェローとして、新たな場所で、様々な分野で活躍し、その高い専門性で社会に貢献しています。専任研究員は6名となり、阪神・淡路大震災を踏まえた防災研究に取り組みます。



照本 清峰

専門分野：都市・地域計画
経歴：東京都立大学大学院都市科学研究科
博士課程修了



原田 賢治

専門分野：津波防災工学
経歴：東北大学大学院工学研究科土木工学
専攻博士後期課程修了



DRIフォーラムin東京

平成17年5月20日、内閣府において、「人と防災未来センターにおける実践的防災研究の紹介と意見交換会」が開催されました。

平成17年4月に当センターが事業を開始してから3年が経過し、研究の成果は着実に蓄積されつつあります。そこで、本意見交換会では、防災関係省庁の政策担当者や研究機関の研究者、地方自治体の職員を対象に、その成果を紹介するとともに、当センターにおける実践的防災研究のあり方について意見交換を行いました。

意見交換会には、74名が参加し、意見交換会に対するアンケート調査では、参加者の多くが意見交換会での発表がある程度役に立つとされ、この意見交換会に概ね満足できた、との回答をいただきました。また、防災行政財政の視点からの研究、人々の安心・安全を確保するための研究、具体性のある提案につながる実践的防災研究の実施を期待したいなどの意見がありました。



スマトラ島沖地震津波災害調査報告

①バンダアチエ調査報告

平成 16 年 12 月 26 日、インドネシア・スマトラ島北西沖を震源とする M9.0 の地震が発生しました。この地震にもなう津波により、スマトラ島北部のアチエ州では、死者 128,515 人、行方不明者 37,063 人、避難者 513,278 人 (BAKORNAS、平成 17 年 4 月 30 日現在) と甚大な被害となりました。

人と防災未来センターでは、この災害の被害状況を把握し、被災地が復興へと向かう過程における課題を整理し、阪神・淡路大震災の被災地から今回の被災地アチエに対する支援策のあり方を検討するとともに、我が国にもその教訓を活かすべく、アジア防災センターの荒木田勝主任研究員の協力を得て、平成 17 年 4 月 21 日から 28 日の期間、深澤良信副センター長、平澤雄一郎事業課長、原田賢治専任研究員をインドネシア・バンダアチエに派遣し現地調査を行いました。

バンダアチエ市街では、津波来襲前の市街地を想像できないほどの津波による大きな被害が広い範囲にわたって見られました。現地では、仮設住宅が建ちだしてあり、復興に向けて自助努力する被災者が多く見られましたが、津波による被害が大きく、復旧、復興にはこれから多くの支援や長い時間が必要になると思われます。



バンダアチエ市内の津波による被害状況



バンダアチエの避難所の様子

②ニアス島調査報告

平成 16 年 3 月 28 日、インドネシア・スマトラ島北西沖を震源とする M8.7 の地震が発生しました。この地震により、震源の真上に位置するニアス島全体では死者 839 人、全壊家屋 15,313 棟、避難者 48,130 人に達し、大きな被害が生じました (OCHA、平成 17 年 4 月 20 日現在)。

当センターでは、インドネシア・バンダアチエに派遣した職員をアジア防災センターの荒木田勝主任研究員の協力同行を得て、平成 17 年 4 月 21 日から 28 日の期間、インドネシア・ニアス島にも派遣し現地調査を行うとともに、阪神・淡路大震災の経験と教訓をふまえ、現地関係機関と意見交換を行いました。

ニアス島の中心都市グヌンシリの市街地では、屋根の軽い木造の建物は被害が少なく、鉄筋コンクリート製の建物は倒壊しており、調査時点では重機や資材が十分ではないためガレキの除去は本格化していない状況でした。地域住民は地震や津波に対する知識をほとんど持ち合わせておらず、これらに対する不安を除くためにも、地震や津波から身を守る知識の習得や、今回の災害の経験と教訓の伝承が今後の検討課題として挙げられます。



ニアス島での被害の様子、屋根の軽い木造の建物は被害が少ない



ニアス島での被害の様子、鉄筋コンクリート製の建物の倒壊

スマトラ沖地震津波調査報告会

平成 17 年 5 月 30 日に、センターにおいてスマトラ沖地震津波調査報告会を開催いたしました。原田賢治専任研究員から「スマトラ沖地震津波の発生メカニズムと被害の概要」について、津波工学の専門的観点から報告がありました。深澤良信副センター長より、平成 16 年 12 月スマトラ沖地震津波により大きな被害を受けたバンダアチエおよび平成 17 年 3 月スマトラ沖地震により大きな被害を受けたニアス島の「被災地の現状と復興への課題」について報告されました。

また、CODE (海外災害援助市民センター) 村井雅清氏から、「緊急支援から復興支援へ」として海外災害援助市民センターの支援のあり方について発表がされました。



センターには毎日たくさんのお客様がやってこられます。
そこで、昨年度の観覧者の状況をQ&Aにしてまとめました。

Q 昨年度はセンターに何人来られたのでしょうか?

A 平成16年度のセンターの観覧者数は約54万人で、前年度の観覧者数53万22千人に比べて、約8千500人の増となりました。年齢区別の状況は、大人が54.3%、学生等が45.7%ですが、前年度より学生等の割合が増加しました。

年齢区分別観覧者数

(上段:観覧者数:人)
(下段:構成比率)

区分	観覧者数計		防災未来館		ひと未来館	
	平成15年度	平成16年度	平成15年度	平成16年度	平成15年度	平成16年度
大人	307,808 (57.9%)	293,382 (54.3%)	207,390 (39.0%)	203,203 (37.6%)	100,418 (18.9%)	90,179 (16.7%)
高校・大学生	33,767 (6.3%)	34,832 (6.4%)	27,246 (5.1%)	26,922 (4.9%)	6,521 (1.2%)	7,910 (1.5%)
小学・中学生等	190,598 (35.8%)	212,408 (39.3%)	114,948 (21.6%)	132,284 (24.5%)	75,650 (14.2%)	80,124 (14.8%)
計	532,173 (100.0%)	540,622 (100.0%)	349,584 (65.7%)	362,409 (67.0%)	182,589 (34.3%)	178,213 (33.0%)

Q 団体の方が多いのでしょうか?

A 団体・個人別では、個人が38.3%、団体予約が61.7%となっており、前年度に比して、団体予約の割合が増加しています。また、団体予約観覧者数のうち、県内と県外の比率を見ますと、県内は26.7%、県外は73.3%であり、県外からの比率が上昇傾向にあります。

Q 団体は小学校、中学校などの学校関係が多いのでしょうか?

A 全団体予約観覧者に占める学校関係の割合は42.5%を占め、増加傾向にあることがわかります。

(観覧者数)

(単位:人)

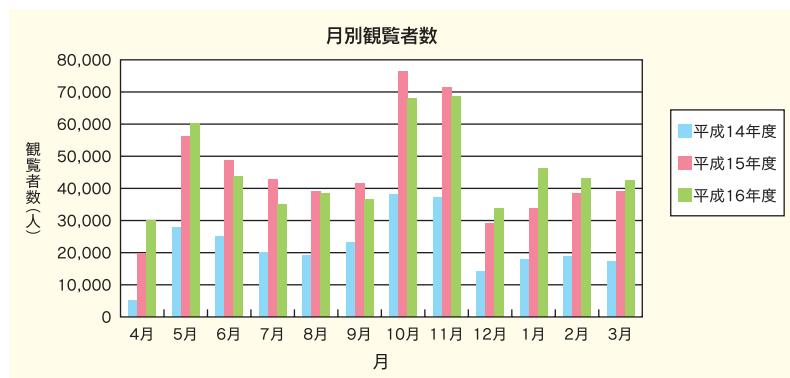
区分	全体	一般	学校関係			
				小学校	中学校	高校以上
平成14年度	147,515	91,589	55,926	10,534	23,408	21,984
平成15年度	316,757	200,525	116,232	28,981	58,073	29,178
平成16年度	333,833	192,071	141,762	36,321	74,076	31,365
計	798,105	484,185	313,920	75,836	155,557	82,527

(構成比率)

区分	全体	一般	学校関係			
				小学校	中学校	高校以上
平成14年度	100.0%	62.1%	37.9%	7.1%	15.9%	14.9%
平成15年度	100.0%	63.3%	36.7%	9.1%	18.3%	9.2%
平成16年度	100.0%	57.5%	42.5%	10.9%	22.2%	9.4%
計	100.0%	60.7%	39.3%	9.5%	19.5%	10.3%

Q どのシーズンが一番多いのでしょうか?

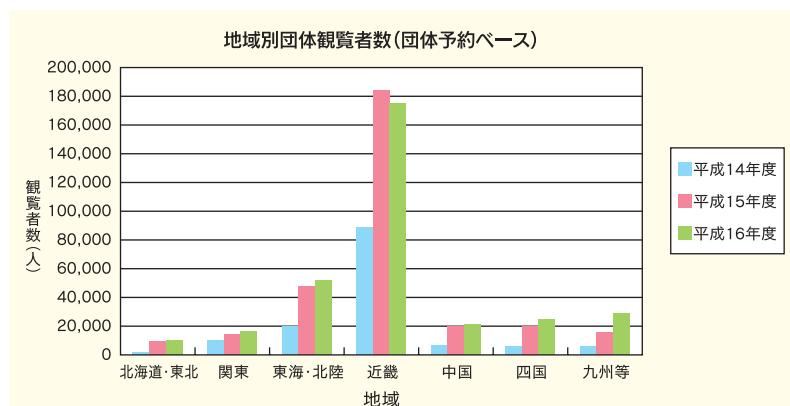
A 月別の観覧者数は、修学旅行シーズンである春の5月と秋の10、11月が特に多くなっています。



Q どの地域から来ているのでしょうか?

A どの地域からセンターに来ているかを団体予約観覧者について調べたところ、近畿以外の地域に対しても順調に浸透していることがわかります。特に、中国、四国、九州といった西日本地域の伸びが好調です。

都道府県別に見ますと、兵庫県をはじめ、近畿府県が上位を占めていますが、それ以外の地域をみると、愛知県、和歌山県、高知県など地震想定地域からの観覧者が多くなっているようです。



(単位:人)

ランキング	平成14年度		平成15年度		平成16年度	
1	兵 庫 県	53,110	兵 庫 県	102,424	兵 庫 県	89,331
2	大 阪 府	19,918	大 阪 府	37,164	大 阪 府	38,219
3	愛 知 県	7,367	愛 知 県	16,458	愛 知 県	17,441
4	京 都 府	4,859	和 歌 山 県	12,988	和 歌 山 県	14,600
5	滋 賀 県	4,856	滋 賀 県	12,922	京 都 府	11,871
6	和 歌 山 県	3,753	京 都 府	10,303	滋 賀 県	10,548
7	岐 阜 県	3,718	三 重 県	9,259	岡 山 県	9,836
8	岡 山 県	3,363	奈 良 県	9,173	奈 良 県	9,764
9	三 重 県	3,345	岡 山 県	7,820	高 知 県	8,920
10	東 京 都	3,066	高 知 県	7,818	三 重 県	8,110

今年度も多くの方々に来て頂けるように魅力あるセンターにしていきたいと思いますので、是非ご来観ください。

“トライやるウィーク” 中学生頑張る！

平成17年6月14日から17日まで、兵庫中学校の2年生3名が“トライやるウィーク（社会体験活動）”でセンターにやってきました。

センターでは展示部門と資料室で仕事を体験してもらいました。4日間の体験を終えた中学生に感想を聞いてみたところ、展示部門では、最初は初めてのことで少し緊張もあり、なかなか来館者に話し掛けられなかつたのが、だんだん慣れてできるようになったことや、実験のデモンストレーションで来館者に理解してもらえた時に嬉しかった経験を話してくれました。

また、資料室の仕事では、書架整理をしている時に、分厚い本などが案外重くて作業がなかなか大変だったことや、普段することのない発送の作業をしたりして楽しかったということでした。



「友の会」会員募集

人と防災未来センター友の会は、センターの活動に協力し、積極的に利用して防災対策の大切さといのちの尊さを学習しようとする人々の親睦を深め、センターと連携しつつ、社会の防災力の向上に寄与することを目的に設立されました。

どなたでも入会できますので、たくさんの方の入会をお待ちしています！



会員特典

1. センターへ無料で入館できます。
2. センターの最新情報が手に入ります。
3. 友の会のイベントに参加できます。

年会費

個人会員	3,000円
法人会員	一口 50,000円
郵便振替	: 00940-2-160211
口座名	: 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター友の会

MIRAI

[人と防災未来センターニュース] Vol.14

発行／阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

お問い合わせ先

 **人と防災未来センター**

神戸市中央区臨浜海岸通1-5-2 TEL.078-651-0073
事務局／TEL.(078)262-5060
観覧案内／TEL.(078)262-5050
ホームページアドレス／<http://www.dri.ne.jp/>

●開館時間 9:30～17:30(入館は16:30まで)
ただし、7～9月は9:30～18:00
(入館は17:00まで)
金・土曜日は19:00(入館は18:00まで)

●休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)
年末年始の12月31日と1月1日
※ゴールデンウィーク(4月28日～5月5日)期間中は無休

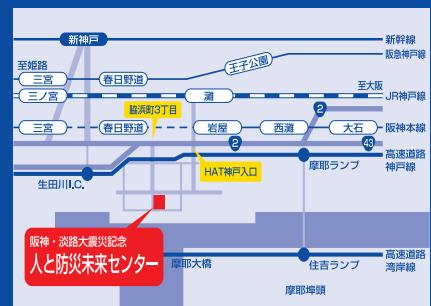
●入館料金(団体は20名以上)

区分	防災未来館		ひと未来館		両館とも	
	個人	団体	個人	団体	個人	団体
大人	500円	400円	500円	400円	800円	640円
高校・大学生	400円	320円	400円	320円	640円	510円
小・中学生	250円	200円	250円	200円	400円	320円

※兵庫県内の小・中学生はココロンカードを提示すれば無料。

障害をお持ちの方及び兵庫県内在住で65歳以上の方は上記の半額。障害者手帳又は年齢・住所のわかるものを提示ください。

交通マップ



■交通 鉄道／阪神「岩屋駅」から徒歩約10分。
JR「灘駅」南口から徒歩約12分。

阪急「王子公園駅」西口から徒歩約20分。
バス／JR・阪神・阪急・神戸市営地下鉄「三宮駅」

から約15分。
神戸市営バス

三宮駅前から約1時間間隔で運転。

阪神電鉄バス
三宮駅前から約30分間隔で運転。
車／阪神高速神戸線「生田川ランプ」から約8分、

阪神高速神戸線「摩耶ランプ」から約4分、
阪急・阪神・JR「三宮駅」から約10分。

■駐車場 有料駐車場(普通車100台駐車可能)このほか
近隣にも有料駐車場があります。

■バス待機所

予約制／無料
観覧予約時に待機所利用のご予約をお願いします。

ご意見・ご感想は事務局まで。